

桑名市議会議長  
南澤幸美様

教育福祉委員会委員長  
森下幸泰

議会いきいきトーク実施結果報告書

開催日時	2023年5月17日(水)13時30分~14時30分
開催場所	はまぐりプラザ
出席議員	桑名市議会教育福祉委員会 9名 森下幸泰(委員長)、渡辺仁美(副委員長)、松田正美、畑紀子 多屋真美、近藤奈歩、藤本直子、市野修平、伊藤知美(記録)
参加者	桑員社会保障推進協議会 11名
概要	・認知症予防や、地域経済活性化の観点から加齢性難聴による補聴器の購入への公的補助の必要性について ・難聴の早期発見のための公的な聴力検査導入の必要性について。
主な発言・意見等	<b>【参加者の発言、ご意見】</b> ○難聴は一度進行すると改善しにくいため、早期対応が重要である。40デシベルが聞こえにくくなってきた段階で補聴器をつけることが大事で、聴力がなくなってからでは意味がない。 ○労働者への健康診断には聴力検査が含まれているが、自治体の特定健診には含まれていない。難聴の早期発見のために公的な聴力検査を導入していただきたい。 ○難聴は、認知症の要因にもなると言われている。高齢者の生活の質の向上、社会参加、地域経済活性、医療費削減、防災の観点から補聴器のさらなる普及を望む。 ○日本では、補聴器が高額であることが普及の妨げの原因の一つであると考えられる。全国の自治体で補聴器の購入補助を行っている市町はたくさんある。ぜひ桑名市でも公的補助を行ってほしい。 ○はじめから、多額の予算をつける必要はなく、スクリーニングを行い、必要な人からつけられるように順番にやっていってもらえたらと思う。 ○欧米では、難聴は「医療」の分野だが、日本では、「障害」の分野のため、医療の公的給付対象にならない。 ○防災の点でも難聴者に限らず、室内にいるものに知らせがいきわたらせるために、困っている人の意見をしっかり聞いて対処してほしい。 ○補聴器をつけていてもマスクをしていると聞きづらい。広い会場は、聞き取りにくい。早口だと聞き取れない。

○聞こえが悪いと TV をみるのも億劫になる。人前に出たくなくなる。

○難聴者は盲者に比べ分かってもらにくい。認知症は因果関係というより、社会的環境がそうさせると言われているので、心配りのできる社会にしていくことが大事と思う。

【議員の発言（参加者からの解答含む）】

<質問>

○補聴器の使用、違和感はあるのか？  
（使い始めは、違和感があるが、3か月使うと慣れてくる。補聴器は、眼鏡をかけたらずぐに見えるようになるのと同じではない）

○難聴で補聴器をつけるべき人が、つけていない理由は？  
（資料がないのではっきりとしたものは分からないが、難聴者は1439万人のうち補聴器使用率は15%。単純計算で、1200万人がつけていないことになる。）

○補聴器の耐用年数は？  
（しっかりメンテナンスをして、5～6年。）

○メンテナンスにかかる費用はどうしているか？  
（購入店で無料で行ってもらっている。）

<意見>

○メンテナンスに通うのが大変で、使いたいと思ってない人が多いのかもしれない。セルフメンテナンスができるようになれば補聴器装着に前向きになる人が増えるのではないか。また、大切なことは、高齢者が聞こえづらいという前提でお話をする配慮をすとか、使いやすくなるような社会の動きが一番必要かと思う。

○世間一般全体に難聴の早期発見や補聴器の必要性の周知をしていくことが大切と考える。補聴器の専門家や耳鼻科の先生との交流も生まれるという点でも検査を促せるような制度を整えていく必要があると思う。

備考